

声の生地 鈴木志郎康

鈴木志郎康さんの「声の生地」 第16回萩原朔太郎賞に決定

第16回萩原朔太郎賞は、鈴木志郎康さんの『声の生地』に決まる。作品は9月2日に行った選考会で、最終候補作品6点の中から選ばれました。ここでは鈴木さんのプロフィール、喜びの言葉などを紹介。賞の贈呈式と記念講演は、11月1日(土)に前橋文学館で行います。

問い合わせは
文化国際課 ☎898-6522

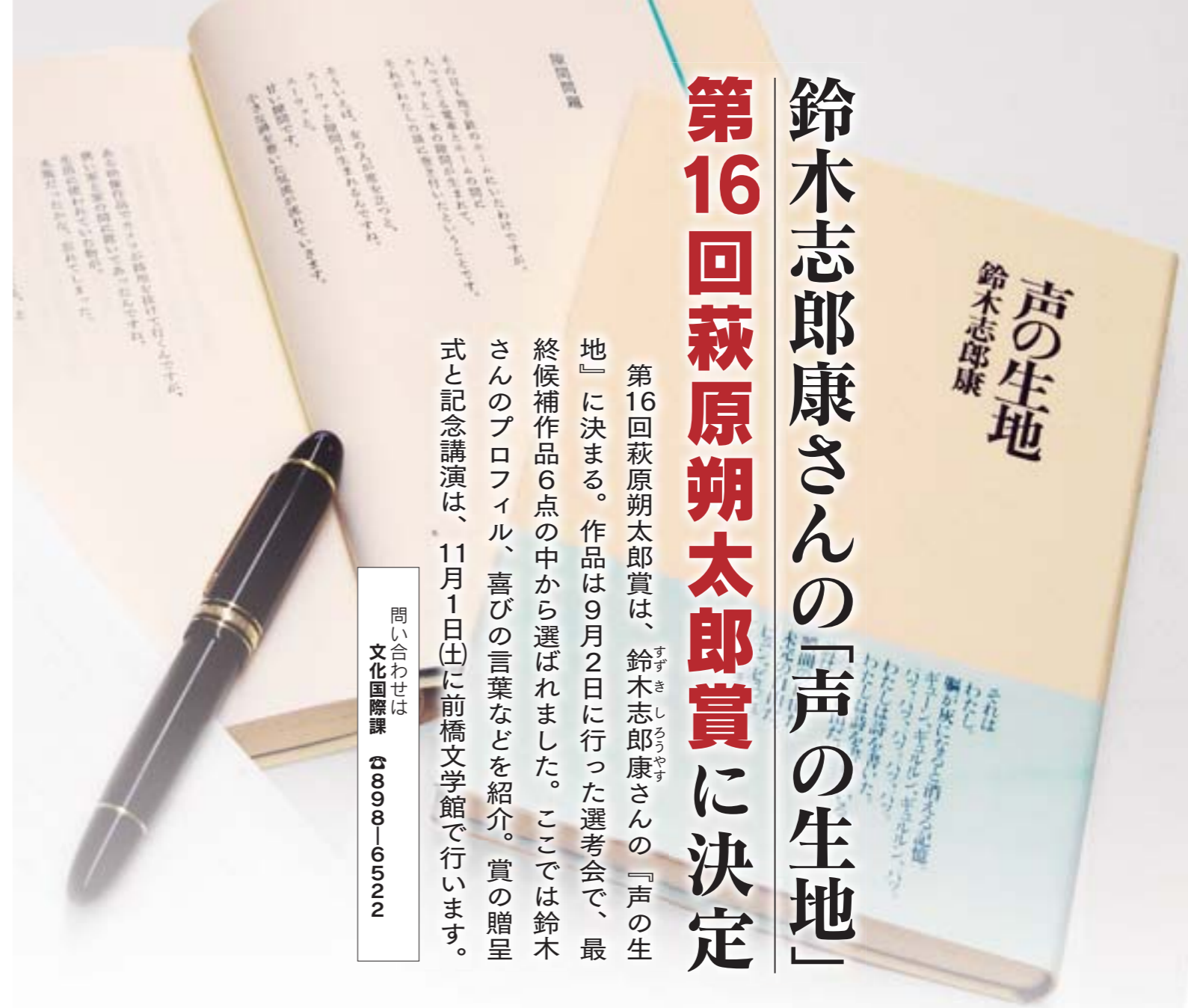
隙間問題

その日も地下鉄のホームにいたわけですが、入ってくる電車とホームの間にスーウツと一本の隙間が生まれて、それがわたしの頭に巻き付いたということです。

そういえば、女の人が席を立つと、スーウツと隙間が生まれるんですね。スーウツと。甘い隙間です。小さな渦を巻いた気流が流れていきます。

ある映像作品でカメラが路地を抜けて行くんですが、狭い家と家の間に置いてあったんですね、生活に使われていた物が。水瓶だったかな、忘れてしまった。

(この後43行省略)



選考委員は入沢さんら5人



選考理由を代表で説明する岡井さん(左)

敬称略(50音順) | 入沢康夫(詩人、評論家、仏文学者)、岡井隆(歌人)、白石かずこ(詩人、評論家、エッセイスト)、高橋源一郎(作家、評論家)、平田俊子(詩人、作家)。

鈴木さんのプロフィール

昭和10年東京都江東区生まれ。早稲田大文学部卒。昭和36年から52年までNHKに映画カメラマンとして勤務。在職中の昭和43年に詩集『罐製同棲又は陥穿への逃走』でH氏賞受賞。多摩美術大教授などを歴任。平成14年詩集『胡桃ポインタ』で第32回高見順賞受賞。

喜びの言葉

今までたくさんさんの詩を書いてきた上での受賞なので喜びは格別です。大変うれしいです。これからも詩を書き続ける励みになります。詩の現場を老人パワーで活性化したいと思います。

9月2日、第16回萩原朔太郎賞の選考委員会を市役所で行い、5人の委員による選考の結果、最終候補作品6点の中から鈴木志郎康さんの詩集『声の生地』が栄えある16回目の朔太郎賞に決まりました。



鈴木志郎康さん

6つの作品が最終候補に

最終選考に残った候補者・作品名・出版社は次のとおりです。(敬称略。作品の50音順)
山崎佳代子『アトス、しずかな旅人』(書肆山田)
蜂飼耳『隠す葉』(思潮社)
正津勉『嬉遊曲』(アーツランドクラフツ)
鈴木志郎康『声の生地』(書肆山田)
アーサー・ビナード『左右の安全』(集英社)
辻井喬『自伝詩のためのエスキース』(思潮社)

11月1日に贈呈式・記念講演

賞の贈呈式と受賞者の記念講演を実施。駐車券の配布はありません。

日時=11月1日(土)午後1時30分

会場=前橋文学館

対象=一般、先着80人

申し込み=10月7日(火)から文化国際課☎898-6522へ

文学館で朔太郎受賞者プレ展

受賞作品などを紹介する展示会を行います。

期間=10月4日(土)~11月9日(日)

会場=前橋文学館

内容=第16回萩原朔太郎賞受賞者・鈴木志郎康さんの受賞作品や著書などを展示

問い合わせは 同館 ☎235-8011

